

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月14日(水)

事務事業		救助活動事務		担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54611
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	1	備えができ安全・安心なまちづくり	根拠法令 個別計画等	・消防法 ・高圧ガス保安法 ・消防組織法 ・鉄砲刀剣類所持等取締法 ・消防力の整備指針 ・深谷市消防本部警防規程				
	小項目	2	消防・救急体制の充実						
	主要プロジェクト								
事業概要		火災、交通事故及び水難事故をはじめとする各種災害から迅速に人命を救うため、特殊な装備や資器材を備えた車両及び高度で専門的な知識と技術を身に付けた隊員を配備し、各種災害現場において迅速、確実かつ安全な救助活動を遂行する。							
目的 ※何のために		住民の生命、身体及び財産を火災や各種災害から保護するとともに、被害の軽減を図ることを目的とする。							
対象 ※誰・何を対象に		住民の生命、身体及び財産。							
手段 ※どのように		複雑多様化する各種災害に対応するために、訓練、研修等を実施し技術、知識の向上を図るとともに、各種装備、資器材の点検、整備を実施し、常時使用可能な態勢を整えることで迅速な救助活動を遂行する。							
成果 ※何を求めるか		各種災害現場における救助活動時間の短縮、年間計画に基づく訓練の実施及び各種装備資器材の点検、整備状況を把握する。							
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NP0等 <input type="checkbox"/> その他()							
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額(円)	
本事業の 主な業務		・救助活動等災害対応業務					・		
		・救助資器材の維持管理業務					・		
		・各種救助訓練の企画立案、調整、実施に関する業務					・		
		・中高層建築物等の警防計画作成業務					・		
		・管内における危険場所、箇所等の調査及び啓発					・		
		・救助活動記録票、統計及び即報の作成事務					・		

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画							
事業費	予算(現額)	0	0	0	0		
	決算額	0	0	0	0		
	財源内訳	国支出金	0	0	0		
		県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0		
		一般財源	0	0	0		
人件費	従事職員数(人)	0.10	0.10	0.25	0.25		
	人件費相当試算※	776,192	786,956	2,049,097	2,049,097		
総事業費試算		776,192	786,956	2,049,097	2,049,097		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	救助出場件数（暦年）		目標値	件						
			実績値		98.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所			救助出場件数のため目標値の設定に値しない。 / 出場件数						
	実績値の算出式									
活動指標 2	訓練・研修回数		目標値	回	44.00	44.00				
			実績値		44.00	0.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			年間訓練計画表に基づく訓練実施回数。（消防救助技術指導会訓練を除く。） / 実施回数						
	実績値の算出式									
活動指標 3	資器材点検実施率		目標値	%	100.00	100.00				
			実績値		100.00	0.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			100%の資器材点検を目標とする。 / 実施日／365日×100						
	実績値の算出式									
成果指標 1	資器材常時使用可能率		目標値	%	100.00	100.00				
			実績値		100.00	0.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			車載されている全資器材の常時使用可能率。 / 使用可能数／全資器材×100						
	実績値の算出式									
			目標値							
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									
			目標値							
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
（評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	年間訓練計画に定められた訓練、研修については実施することができ、現場対応能力向上に一定の成果を挙げることができた。資器材点検についても日常点検、週間点検を滞りなく実施できたため、目標を達成できた。 実際の活動現場においても資器材の不備はなく、その能力を十分に発揮することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	各資器材の日常点検及び週間点検を実施する中で、不備があるものについては早期に修繕した。また当該資器材が修繕中においては、関係業者に迅速に症状の詳細を報告し、代替資器材を借用することで、災害活動時には不都合なく対応することができた。
			評価者 救助係長 根岸雅之・押田裕介

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
（評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	小型重機及びフルハーネス型墜落制止用具の特別教育を署内研修の一環として実施することで、免許取得に必要な経費を削減しつつ、免許取得者を増員することができた。深谷市管理の敷地を有効活用することで、訓練場借用費用も抑えることができた。今後も各種特別教育及び訓練を継続し、有事の際の協力・応援体制を構築することも可能であるとする。
			評価者 救助係長 根岸雅之・押田裕介

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	当消防本部は、緊急消防援助隊土砂・風水害機動支援部隊として登録されており、管内だけではなく、全国各地で多発する大規模自然災害事案等に備える必要がある。そのため通常の訓練に加え、小型重機運用等の専門技術を継続的に習得し、伝承していかなければならない。今年度は職場内で特別教育を実施し、小型重機運転資格者を増員していく。また有資格者には実際の災害現場に基づいた訓練を実施し、活動効率化及び迅速化を図る。
達成状況及び その効果	深谷市の管理している敷地を借用し想定訓練を実施したことで、専門的な操作技術を習得することができた。結果として、各個人の操作技術が格段に向上し、緊急消防援助隊の特殊部隊として災害活動時の技術統一及び隊員同士の共通認識を持つことができた。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	救助活動事務	担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54611
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		<div>評価の内容説明</div> <div>年間訓練計画に基づいた訓練を実施し、訓練毎に評価及び検討を行い、隊員育成そして部隊運用の効率化を図ることができている。 土砂・風水害機動支援部隊登録隊の県内合同訓練、また緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練、全国緊急消防援助隊合同訓練に参加し、県内に限らず全国各地の緊急消防援助隊登録隊との連携強化を図ることができた。</div>					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	消防課長 鴻野 匡志				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	昨年同様に深谷市が管理している敷地を借用し、災害現場に基づいた想定訓練を実施することで、災害時の活動効率化及び迅速化を図る。また、高度救助資器材の署内研修を実施し、他の職員の知識、技術の向上及び各隊との連携強化を目指す。今後も土砂・風水害における合同訓練への参加、高度救助資器材の署内研修を継続する。そして、資器材の維持管理を適正に実施し、多様化する災害に対して即時対応する体制強化を目指していく。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	今後起こりうる南海トラフ地震や首都直下型地震等の大規模自然災害に備え、現在実施している訓練を継続していくとともに、今後は小型重機の運用と高度救助資器材を連携させた訓練を実施していく必要がある。 その中で今後災害時の情報伝達に必要不可欠となるであろうICTの活用を視野に入れ、住民の安全安心のために、いかなる災害にも対応できる体制を少しずつでも構築していくべきである。

8. 評価指標グラフ

区分	活動指標 1	指標名	救助出場件数（暦年）
			
区分	活動指標 2	指標名	訓練・研修回数
			